

皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
 日頃は城北信用金庫に格別のご高配を賜り、まことにありがとうございます。
 本年も、当金庫についてのご理解を一層深めていただくために、このディスクロージャー誌を作成いたしました。
 ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

経営環境認識および第7次中期経営計画について

業務革新を進め、「コンサルティング機能の充実」を図ってまいります

令和4年度は、コロナ禍による個人消費の低迷が続くなか、原材料価格・エネルギー価格の高騰と急速な円安が進行し、多くの事業者の皆さまが価格面での対応に苦慮される状況となりました。政府は、観光業を支援する景気刺激策を実施しましたが、ウクライナ侵攻を続けるロシアへの国際的な経済制裁や、中国のゼロコロナ政策によるサプライチェーンの停滞など、先行きが懸念される海外情勢も影響し、景気持ち直しの動きは力強さを欠くものとなりました。

足元では経済活動の正常化が進みつつありますが、当金庫では引き続ききめ細かなサポートに努めてまいりますので、ご相談はどうぞ最寄りの店舗にお声がけくださいますようお願い申し上げます。

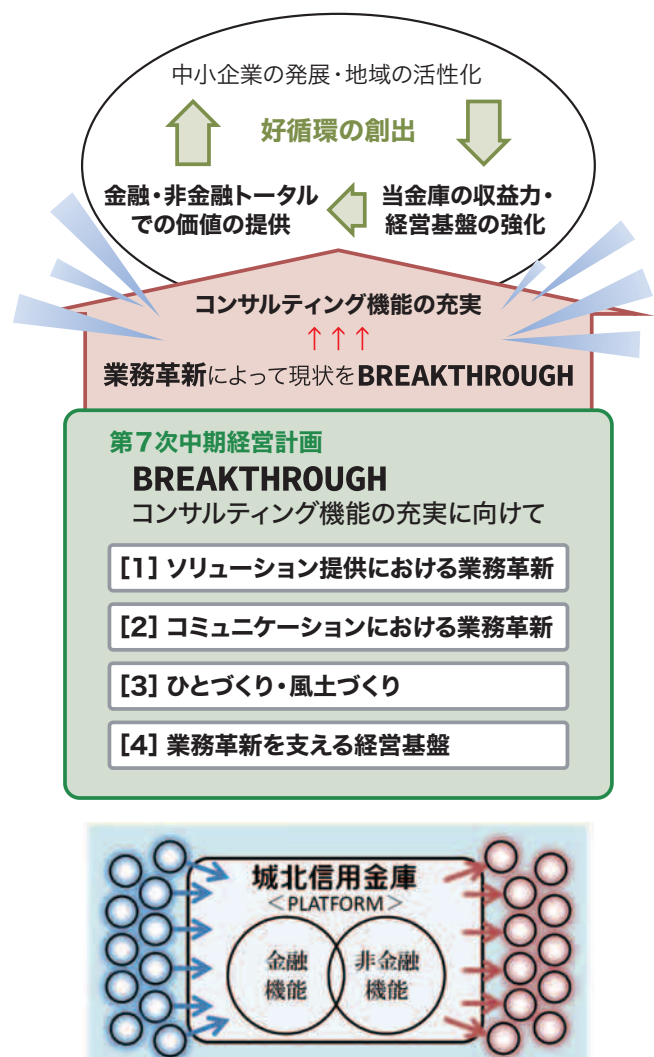
さて、3年あまり続いたコロナ禍を経て、人々の価値観や行動様式は大きく変化しました。行動制限という前例のない事態のなかで、デジタルツールがより身近な存在となり、また暮らしや事業の将来について、改めて思いを巡らせた方も多くいらっしゃいました。

他方、金融業界では規制緩和が進み、信用金庫法の改正によって、私ども信用金庫に期待される役割や事業領域は大きく拡大しております。当金庫におきましても、地域のプラットフォームとして、お取引先の課題解決に幅広く対応し伴走できますよう、機能強化を図ることが重要と考えております。

このような状況を踏まえ、現在取り組んでおります第7次中期経営計画では、「**BREAKTHROUGH**（障壁の突破）」を合言葉に、コンサルティング機能の充実に向けた態勢整備を進めております。

- 地域の皆さまとの間に、何でも相談して下さるような懇意な関係を数多く築くこと。
- 懇意な関係のなかで伺ったお話をつなぎ合わせ、お客さまの課題やニーズを深く理解すること。
- それらを踏まえて、質の高い独自サービスを開発し、最適な組み合わせでご提供すること。
- 地域でのつながりをもとに、さまざまな角度から地域活性化に取り組むこと。

これらをより高いレベルで実行できますよう、業務革新を図りたいと考えております。



令和4年度の取り組み

第7次中期経営計画の初年度として、新たな取り組みをスタートさせました

●ソリューション提供における取り組み

令和4年度から本格的に業務を開始したコンサルティング子会社「JSパートナーズ株式会社」と、本部の専任者・営業店が連携してご相談に応じる態勢の整備を進めました。連携して展開するサービスのうち、事業者のお客さま向けのオンラインコミュニティ「COSA ON Online」は、ビジネスの情報源・事業者間交流の場として、期末現在で約1,700先のお取引先にご利用いただいております。

また11月には、全国の金融機関でも初の取り組みとして、お取引先企業の魅力ある商品を広く世の中に発信するYouTubeチャンネル「JoynTV!」を開設しました。SNSを活用した当金庫独自の販促支援ソリューションとして、おかげさまでご好評をいただいております。

●コミュニケーション強化に向けた取り組み

お客さまとのコミュニケーションをより一層深めることができますよう、店内レイアウトやお手続きの流れなどにおいても、新たな取り組みを進めております。

令和4年度は、7月に神田支店（移転リニューアル）、12月に渋谷支店（新設）をオープンいたしました。神田支店では窓口カウンターを設置せず、ロビーのテーブルでゆっくりご相談いただけるレイアウトとしました。事業所が多い地域に立地する渋谷支店では、カウンターもATMも設置せず、打ち合わせスペースを随所に配置して、事業に関するご融資やご相談業務に特化した店舗としております。また、伝票記入のご負担が軽減される「窓口タブレット」を全店に導入するとともに、営業店事務の本部集中処理についても機能向上を図りました。

一方、パブリックリレーションの面では、水森かおりさんに歌っていただいた「しぶさわくんの唄」プロジェクトなど、北区ゆかりの渋沢栄一翁に関する地域プロモーションに取り組んだほか、北区をホームタウンとする女子プロサッカーチーム「日テレ・東京ヴェルディベレーザ」様と、新たに地域連携協定を締結しました。

取り組みの詳細は、6ページ以降にも記載しておりますのでぜひご覧ください。



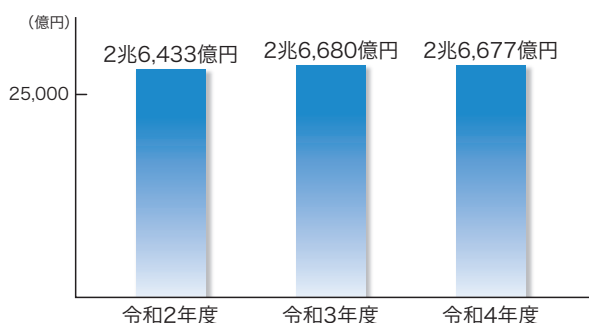
令和4年度の業績概況

業務純益は81億円、経常利益は84億円を計上いたしました

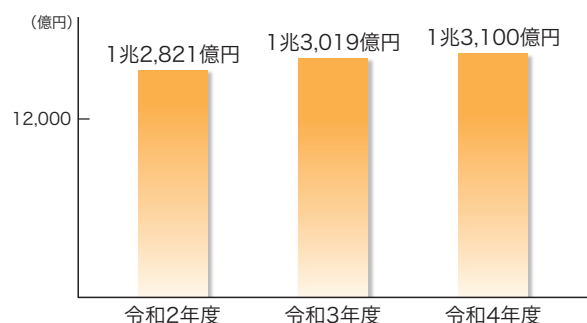
このような取り組みを通じ、広く地域の皆さまにお取引いただきました結果、令和4年度決算におきましては、期末の預積金残高2兆6,677億円、貸出金残高1兆3,100億円となりました。損益につきましては、貸出金利息や、各種手数料などの役務収益が前年度対比で増加したほか、効率的な業務運営により経費の節減に努めました結果、業務純益は81億円、経常利益は84億円となりました。なお、普通出資に対する配当率は2%とさせていただきます。

年度を通じまして、皆さまからさまざまなお力添えを賜りましたことに深く感謝申し上げます。

預積金残高の推移



貸出金残高の推移



今後の課題と展望

事業者さま向けサービスの開発・提供に一層注力してまいります

さて、これまでの取り組みに多くの手ごたえを感じる一方、今後に向けた課題もみえております。

令和5年度、事業者の皆さまを取り巻く環境には、諸物価の高騰、人手不足、海外経済の停滞懸念といった昨年来の課題が残るうえに、インボイス制度や電帳法における電子データ保存などの開始も間近に迫っています。こうした状況を踏まえ、今後は事業者さま向けサービスの拡充を進め、DX化や業務効率化、販路拡大など課題解決を幅広くサポートできますよう、サービスの開発・提供に注力したいと考えております。

さらに、経営基盤の強化に向けて下記の課題にも継続的に取り組んでまいります。

- 会員の皆さまの利益に資するよう、収益力の向上と自己資本の充実を図ります。
- 統合的リスク管理態勢、AML/CFT 態勢、コンプライアンス・リスク管理態勢の維持・強化に努めます。
- 顧客保護等管理態勢の強化を図り、苦情・相談を活かした業務改善に努めます。
- より多くの会員・利用者の皆さまの声が経営に反映される態勢の構築を目指します。

当金庫はこれからも、会員の皆さまはじめ地域の皆さまのための信用金庫として、さらなるサービスの向上と機能強化に全力を尽くしてまいります。

より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和5年7月

理事長 大前 孝太郎